



新たな「京都市動物園構想」



(素案の概要版)

京都市動物園の役割

- 1 種の保存・環境保全の拠点の役割
- 2 研究機関の役割
- 3 教育機関の役割
- 4 レクリエーション施設の役割

京都市動物園の更なる発展

「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」になるために

- ・絶滅危惧種（ニシゴリラ、アジアゾウ、グレビーシマウマ、イチモンジタナゴ、ツシマヤマネコなど）の域外保全から域内保全への展開を推進する必要がある。
- ・絶滅危惧種の繁殖の推進のために、繁殖施設整備について検討の必要がある。
- ・動物福祉に配慮した飼育環境の充実、とりわけ、動物福祉の観点から課題のあるサルワールド（類人猿舎及びサル島）の再整備が必要である。
- ・国際的な枠組みの中で中長期的な動物種の飼育展示計画を検討し、実現に向けた取組が必要である。（Species360への加入など）

「研究する動物園」として発展するために

- ・動物の学びから人間社会について学ぶという観点を取り入れた研究を進める必要がある。
- ・京都大学をはじめとする他研究機関と連携した研究により、動物の知性や生態の理解を進め、動物の飼育・繁殖・福祉に繋げる必要がある。
- ・動物園の研究成果を市民に分かりやすく発信し、動物園ならではの研究について学んでもらうことが必要である。

「楽しく学べる動物園」となるために

- ・SDGsの取組など、身近な環境から地球レベルの環境問題に向き合う機会となる環境教育施設としての機能・コンテンツの充実が必要である。
- ・すべての世代に対応した生涯学習施設としての機能・コンテンツの充実が必要である。

「多くの人が集う動物園」となるために

- ・国際文化観光都市・京都に立地する動物園として、観光客の多様化、インバウンドに対応した施設、展示の充実・配慮が必要である。

「近くて楽しい動物園」として進化するために

- ・現代的な展示手法や動物福祉の考え方を積極的に取り入れた飼育、展示施設の充実を図る必要がある。
- ・施設の長寿命化（計画修繕）の実施や中長期的な目線で施設整備を検討することが必要である。
- ・様々な年代の方にお越しいただけるように、ユニバーサルデザイン化を進めることが必要である。

京都市動物園理念

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか、いま、現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ、京都市動物園は、ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い、市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

- ・京都市動物園は、絶滅の恐れのある動物種の繁殖に取組み、希少種のいのちをつなぎ、種の保存に寄与します。
- ・京都市動物園は、動物の福祉に配慮し、いのちを輝かせる飼育・展示を行います。
- ・京都市動物園は、野生動物の行動や生態、動物福祉などの研究を推進し、生物多様性の保全に寄与します。
- ・京都市動物園は、種の保存の取組みや研究の成果を生かし、幅広い年齢層を対象に環境教育を実践し、楽しい学びの場を提供します。
- ・京都市動物園は、安全で安心な動物園であり続けます。
- ・京都市動物園は、様々な市民・団体との共汗により、人と動物に係る文化を発信します。

5つの柱と27の施策

柱1 生物多様性の保全に力強く貢献し日本をリードする動物園

- | | | |
|----|---|------------------|
| 施策 | 1 | 持続可能な飼育展示・繁殖の推進 |
| 施策 | 2 | 国際的な希少種の域外保全の推進 |
| 施策 | 3 | 国内希少種の域外・域内保全の推進 |

柱2 野生動物の行動や生態、福祉を研究する世界水準の動物園

- | | | |
|----|---|-----------------------------------|
| 施策 | 4 | 希少種の保全や動物福祉の研究の推進 |
| 施策 | 5 | 動物の子育て、競合、協調から人間・社会を学ぶ研究（人間教育）の推進 |
| 施策 | 6 | 遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進 |
| 施策 | 7 | 学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進 |
| 施策 | 8 | 動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用 |

柱3 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

- | | | |
|----|----|---------------------------------|
| 施策 | 9 | 動物園における環境教育の充実 |
| 施策 | 10 | 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業（4園館連携）の推進 |
| 施策 | 11 | 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進 |
| 施策 | 12 | 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成 |
| 施策 | 13 | 京都市立芸術大学との連携など、文化を発信する場としての機能向上 |
| 施策 | 14 | 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信 |
| 施策 | 15 | 学校教育の素材としての動物園の活用の推進 |

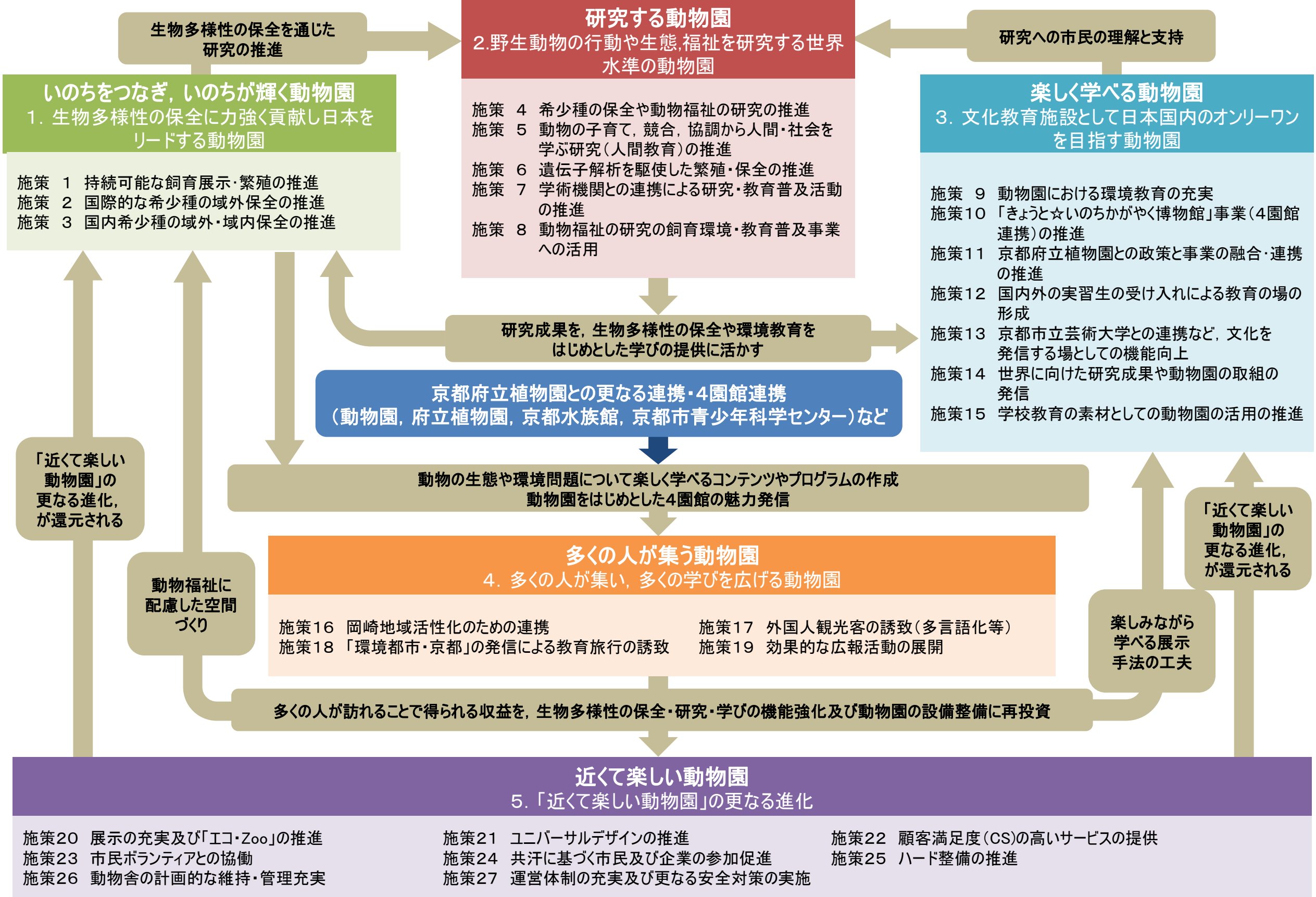
柱4 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園

- | | | |
|----|----|------------------------|
| 施策 | 16 | 岡崎地域活性化のための連携 |
| 施策 | 17 | 外国人観光客の誘致（多言語化等） |
| 施策 | 18 | 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致 |
| 施策 | 19 | 効果的な広報活動の展開 |

柱5 「近くて楽しい動物園」の更なる進化

- | | | |
|----|----|---------------------|
| 施策 | 20 | 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進 |
| 施策 | 21 | ユニバーサルデザインの推進 |
| 施策 | 22 | 顧客満足度（CS）の高いサービスの提供 |
| 施策 | 23 | 市民ボランティアとの協働 |
| 施策 | 24 | 共汗に基づく市民及び企業の参加促進 |
| 施策 | 25 | ハード整備の推進 |
| 施策 | 26 | 動物舎の計画的な維持・管理充実 |
| 施策 | 27 | 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施 |

新たな「京都市動物園構想」5つの柱と27の施策の戦略的な推進



SDGs実現への寄与